

ミュージアム 通信

鶯鳴く —春告鳥をさがして

[お知らせ]
紅ミュージアム年間スケジュール
ミュージアム・ガイドツアーのご案内



「風俗四季哥仙 竹間鶯」鈴木春信 画・国立国会図書館所蔵
竹の葉に紛れている鶯。

鶯鳴く—春告鳥をさがして

春を告げる「春告鳥」

梅の蕾が綻び始めると、聞こえてくる鶯の囀り。当初はたどたどしかつたのが、春の気配がいよいよ濃くなり、桜の頃には「ホーホケキヨ」となめらかになる。囀りはオスが先行い、縄張りの主張と繁殖を前にしたメスへのアピールである。上手なオスほどメスの心証も良く、意中の相手を射止めることができると言われている。鋭い「ケキヨケキヨ」という声も耳にすることがあるが、これはラブコールではなく、「谷渡り」と言い警告の意味を持つ。

この春先に鳴く小鳥を「ウグイス」と呼ぶのは古くからで、最古の和歌集・万葉集にも名が登場する。由来は鳴き声を表音したとか、藪の中にいるから「奥出ヅ」が転化したとか、中国語「黄鶯子」(wung yen su)に拠るなど、諸説ある。近世には「ホーホケキヨ」が「法、法華経」と聞こえると、

の理由だったようだ。

しかし、鶯啼合が途絶えることはなく、先述の江戸末の流行では、各自が丹精込めて育てた鶯に優劣をつけ、より技巧的な囀りを追求する「啼合会」に発展する。

こうした場に連れてくるアスリート鶯は、「附子」として雛のうちから囀りの巧みな「附親」の傍でそれを聞かせ、よく学ばせることが重要とされていた。鳴き始めから次第に上達していくことから分かるように、

憧れの「鶯の糞」

「鶯の糞」である。

落としただけでなく、にきび、肌荒れ、しみやくすみ、

巧拙は個体差だけでなく、学習に拠るところが影響する。オス同士の競争が激しい地域では積極的かつ技巧的に囀る傾向が近年の研究でも指摘されているから

(逆にそうでない地域のオスは囀りが単純になり、そこまで盛んに囀らない傾向がある)、実際に効果のある方法であらう。大正四年(一九一五)発行の『鶯のしを

州、関東では紀州の雛が囀りの才を持つとしていた。啼合に夢中になったのは武家から裕福な商家まで幅広い人々で、名鳥には名を与え、血統は珍重された。しかしそれ以前から、広く女性にとって憧れだったものがある。囀りが巧みでなくても、どこの産地でも、等しく「鶯から出て」くるもの――「鶯の糞」である。

品を自作する方法を解説した昭和二三年(一九四八)刊行の『家庭でできる化粧品薬品と製法』は、「うぐいすあらい粉」の作製方法を、鶯糞をすり潰し大豆の粉やコーンスターチ等と混ぜるとして

いる。糞の割合は約六分の一。江戸の女性も似たような方法で洗い粉を作ったり、銭湯に持っていく(鶯糞という)、工夫をしたようである。

江戸は薄化粧の傾向が強かったと言われる。素肌的美しさを追求する女性たちが鶯の糞を持てはやしたのは分からなくも

無いが、どんな生物であるが、輸出国からの輸出

れ、糞で洗顔するのはなかなか思い切りが必要なことに見える。

ただ、糞には鶯の消化酵素等が含まれ、古い角質を落とし肌理を整える効果は化学的に説明でき、期待できるようだ。そのため根強い支持があり、近年でも「鶯糞の成分」を配合した洗顔料は販売されているが、より正確には鶯糞そのものが含まれる訳ではない。ほとんどの場合、同じ効果のある別種の鳥の糞を原料に使う。原則的に国内産鶯の飼育は禁止されている為である。輸入鶯は許可制で飼養が認められるが、輸出国からの輸出

耳に残る囀りがさまざまに想いを掻き立てるのでないだろうか。

※1 梅は大陸から移入され万葉集の成立した七、八世紀頃広く普及したと言われる。

※2 ウグイスの愛玩飼養は一九五〇年に許可制となり、八〇年に許可飼養対象種からも除外された。現在は主にソウシチヨウの糞が用いられる。

※3 冬の季語「鶯鶯」(鶯の糞は飼養に對する野生の鶯を指しても使った。



『鶯あらい粉』明治中期頃、東京都江戸東京博物館所蔵
Image: 東京都歴史文化財団「イメージアーカイブ」
既製品の鶯糞入り洗い粉の宣伝。

今年も春告鳥は囀る

許可証明書等が必要で、素性の分からない鳥は不可。つまり、現在の日本で個人が好き勝手飼育することはできず、江戸の頃のように鶯を育て啼合会を行うことは、難しくなりつつある。

きつと今年もどこかで耳にする、鶯の囀り。現状を考えるなら、その声は飼鶯ではなく、おおよそ野生のそれである。警戒心の強い鶯は藪や林の奥で鳴く。声はすれども依然姿の見えない春告鳥、鶯。むしろ姿が見えないからこそ、私たちの脳裏には春めいた「ウグイス色」の翼、空想の春告鳥が羽ばたき、

耳に残る囀りがさまざまに想いを掻き立てるのでないだろうか。

※1 梅は大陸から移入され万葉集の成立した七、八世紀頃広く普及したと言われる。

※2 ウグイスの愛玩飼養は一九五〇年に許可制となり、八〇年に許可飼養対象種からも除外された。現在は主にソウシチヨウの糞が用いられる。

※3 冬の季語「鶯鶯」(鶯の糞は飼養に對する野生の鶯を指しても使った。

◆紅ミュージアム年間スケジュール

	イベント	休館日・閉館時間の変更等
2016年4月	23(土) 「江戸の化粧再現講座」～美颜マッサージと白粉化粧～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員30名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	4(月)、11(月)、18(月)、25(月)
5月		2(月)、9(月)、16(月)、23(月)、30(月)
6月	11(土) 「七宝焼きワークショップ」 ～紅ミュージアムで作る七宝アクセサリ～ ①10:30～12:30 ペンダント②14:30～16:30 ピアス 講師:近藤健一氏(七宝作家) 定員各回8名・参加費6,000円	6(月)、13(月)、20(月)、27(月)
7月	23(土) 期間限定ミニ展示「昭和初期の口紅」(仮)開催(～8/28(日)) 27(水) 夏休み子ども自由研究「紅ってなあに」 ①10:30～12:00 ②14:30～16:00 講師:当館エドゥケーター 定員各10名(小学3・4年生とその保護者5組)・参加費無料	4(月)、7(木)創業記念日、 11(月)、19(火)振替、25(月)
8月	5(金) 夏休み子ども自由研究「御料紅を使って和菓子を作ってみよう」 14:00～16:00 講師:池田功氏(御菓子司 一炉庵店主) 定員30名(小学生とその保護者15組) 参加費1,500円(1組につき和菓子3種制作) 18(木) 夏休み子ども自由研究「紅ってなあに」 ①10:30～12:00 ②14:30～16:00 講師:当館エドゥケーター 定員各10名(小学3・4年生とその保護者5組)・参加費無料	1(月)、8(月)、15(月)、22(月)、 29(月)
9月	24(土) 「和のパーソナルカラー講座」 14:00～16:00 講師:吉田雪乃氏(伝統色彩士協会 伝統色彩士) 定員10名・参加費2,000円	5(月)、12(月)、20(火)振替、 26(月)
10月	15(土) 企画展・(仮)「悦楽の磁器―有田の化粧道具」開催(～12/4(日)) 企画展併催企画 「未来の匠」有田焼 ふたり展(仮)	3(月)、11(火)振替、 14(金)展示替えのため、17(月)、 24(月)、31(月) <small>※企画展開催中、毎週金曜日は20:00まで閉館</small>
11月		7(月)、14(月)、21(月)、28(月)
12月	17(土) 「江戸の化粧再現講座」～白粉化粧・比較編～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員30名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	5(月)、12(月)、19(月)、 28(水)～31(土)年末のため
2017年1月		1(日・祝)～4(水)年始のため、 10(火)振替、16(月)、23(月)、 30(月)
2月	18(土) 「浮世絵ワークショップ」～摺り実演と細工紅を使った多色摺り体験～ ①10:30～12:00 親子対象 ②13:30～15:00 一般対象 講師:(公財)アタチ伝統木版画技術保存財団 定員①20名(小学生とその保護者10組)②20名・参加費500円	6(月)、13(月)、20(月)、27(月)
3月		6(月)、13(月)、21(火)振替、 27(月)

*都合により、内容の変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。臨時休館情報につきましては、当館HPをご確認ください。

Information

かわら版

■ミュージアム・ガイドツアー

紅ミュージアムでは、スタッフが常設展示をご案内する「ミュージアム・ガイドツアー」を定期的に開催しています。初めてご来館の方や、解説つきで見学なさりたい方に、ご好評をいただいています。参加費は無料で、事前の予約は不要です。開催日時は、伊勢半本店ホームページでご確認ください。

※ご案内は日本語のみです。



Since 1825
伊勢半本店 ミュージアム

●開館時間/10:00～18:00 ●休館日/毎週月曜日
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F

TEL&FAX:03-5467-3735

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>